

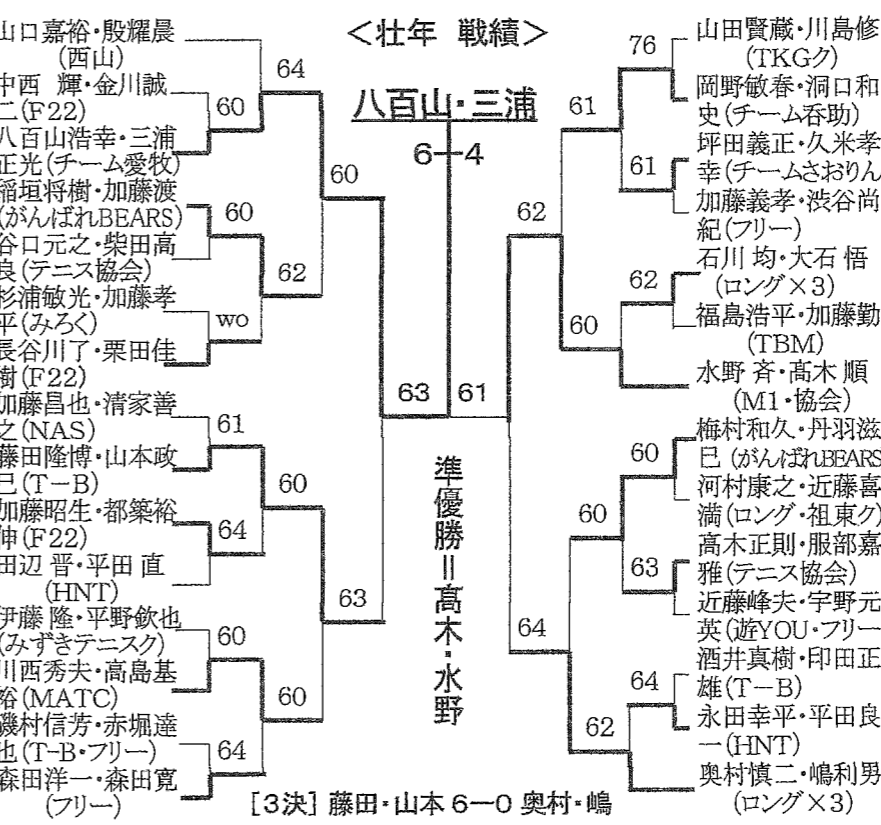
八百山・三浦組が初優勝

壮年

今季最終戦「壮年・レディース大会」は11月26日(日)、市民公園で熱戦。「壮年」(45歳以上の男子複)29組参加は八百山浩幸・三浦正光組(愛牧)が水野斉・高木順(M1・協会)組を6-4で下して初優勝。「レディース」(40歳以上の女子複)20組参加は浦野優子・森山由香組(JUEGO)が河合利江・寺田ひとみ組(丸新)を6-4で退けて2連覇。

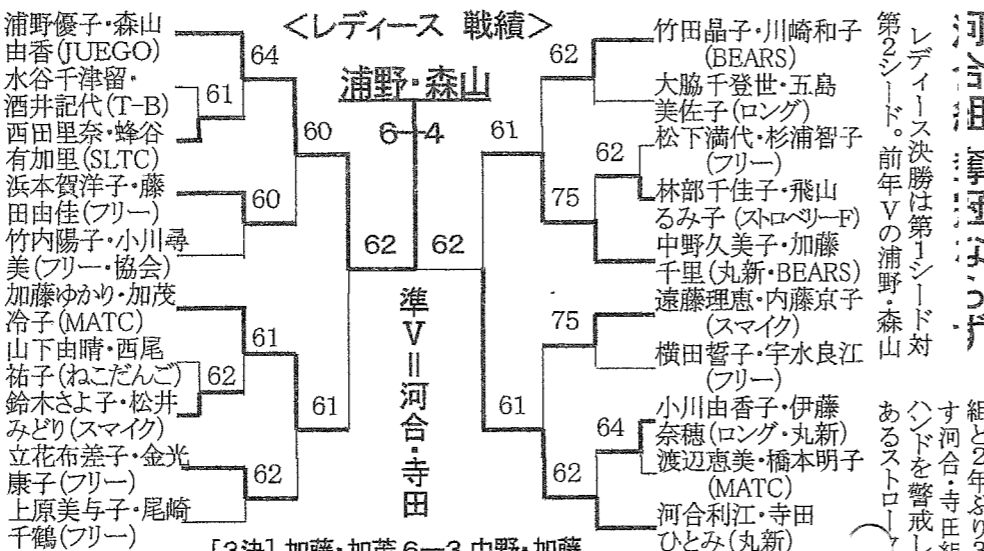


壮年・レディース大会 成績
 <壮年>
 優勝=八百山浩幸・三浦正光組 (チーム愛牧)
 準優勝=水野 斉・高木 順組 (M1・テニス協会)
 第3位=藤田隆博・山本政巳組 (T-B)
 奥村慎二・嶋 利男組 (ロング・ロング・ロング)
 <レディース>
 優勝=浦野優子・森山由香組 (JUEGO)
 準優勝=河合利江・寺田ひとみ組 (丸新)
 第3位=加藤ゆかり・加茂冷子組 (MATC)
 中野久美子・加藤千里組 (丸新・BEARS)



◆賞状、名前はセルフで＝壮年、レディースとも賞状希望者には成績だけを記した賞状を授与。「名前は自分で入れて下さい」に、表彰台はエッ!と驚きの顔。

レディース 浦野・森山組2連覇



組と2年ぶり3度目の優勝をめざす河合・寺田組、寺田の強いバックハンドを警戒しながら見つけたものの、あるストローク、ボチ合戦を

展開した浦野・森山組が終盤の競り合いを制し、6-4で連覇を振り切った。2連覇を達成した。単の女王・浦野の機敏なネットプレー

と巧みな配球、何よりも攻守の安定感があった。

中野・加藤組が奮戦。初戦で強豪の林部・飛山組を7-5で撃破し、準決勝も健闘。3決(回り、加藤・加茂組)に3-6で力尽きたが、加藤の上達ぶりが目立った。

◆中野の話「初戦負けでコンプレックスが覚悟しましたが、2人で一杯頑張りましたよ」

早稲田男女 正勝1-2連覇
 岐阜・長良川で行なわれた大学王座決定戦は早稲田大が男女とも優勝。各1-2連覇を遂げた。

男子決勝(単3・複6)は慶応大を8-1で圧倒。女子(複2・単3)は筑波大に5-0で完勝した。

早大・千頭昇平(高松市立)1年(島袋将 東海中)四日市(工出)2年)と組んだ複で逆転負けを喫し、唯一の黒星を献上したが、第1単の島袋に続き、第3単で快勝した。

女子の大矢希(名経大市)出3年)は初戦の第1複で逆転勝ち。チームに勢いをつけ、優勝に貢献した。



大坂ビーナス破る
 香港OP 4強はならず
 女子の香港オープン(単2)で世界64位の19歳・大坂なおみ(日清食品)が元女王・世界5位で第2シードのビーナス・ウ

イリアムス(米)を7-5、6-2で破って8強入り。憧れの選手との全英・初対戦では惜敗。今回は強サーブを軸に接戦の第1セットを奪い、第2セットも出だしから5ゲームを連取して快勝。大坂は準々決勝で第6シード

フエデラーがナダル下し94勝目
 マスターズ・上海(10月15日まで・V1000)は第2シード・フエデラーが第1シード・ナダルを6-4、6-3で下して3年ぶりに2度目の優勝。今季6勝目、ツアー通算94勝目でシミュンナーズの109勝に次ぎイワン

パブリシティエンコワ(ロシア)に3-6、3-6で敗れ4強はならず。復讐決勝で種積絵利・加藤未唯組は第1シードの台湾ペアに1-6、7-6後のマッチタイブレーを2-10で失い、決勝進出を逃した。

ハリはソック
 9位浮上・ファイナルへ
 マスターズ最終戦・パリ(11月5日まで)決勝は第1シードのソック(米)が予選上で7-7のクライム・ベッチ(セルビア)に5-7、6-4、6-1で逆転勝ちしマスターズ初優勝。今季3勝目、ツアー14勝目。ラック9位に上がり8番手でツアーファイナル出場を決めた。クライム・ベッチは、肩手術の故障が癒えて予選突破。1回

愛知 無念 4強ならず
 47都道府県大会の各上位3ペアによる団体戦、第39回全国レディース決勝大会(11月9-11日、東京昭島・昭和の森)で愛知チームは準々決勝へ進んだが、千葉に1-2で敗れ4強入りはならなかった。

愛知は2回戦登場。埼玉を2-1、京都を3-0で下して8強入り。千葉との準々決勝は1

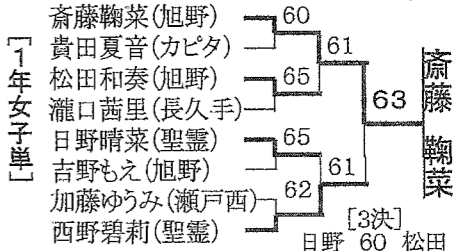
高校学年別大会

第7回・瀬戸地方高校学年別大会は台風で延期、11月3、4日の両日、市民公園で開催。男子は1年単30人、同復2組、2年単31人、同復19組の計143人、女子は1年単16人、同復15組、2年単17人、同復16組の計95人。合計238人が参加。3日は6ゲーム先取で準々決勝まで。4日は1セットマッチで準決勝、決勝、3決。戦績は準々決勝以降。

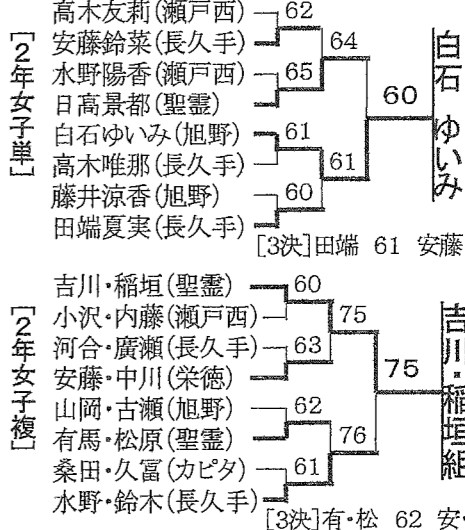


「以下同文」ちょっと残念——女子の表彰式

女子1年 後藤・牧田組



女子2年 吉川・稲垣組



V野村(瀬戸西)

斎藤(旭野)

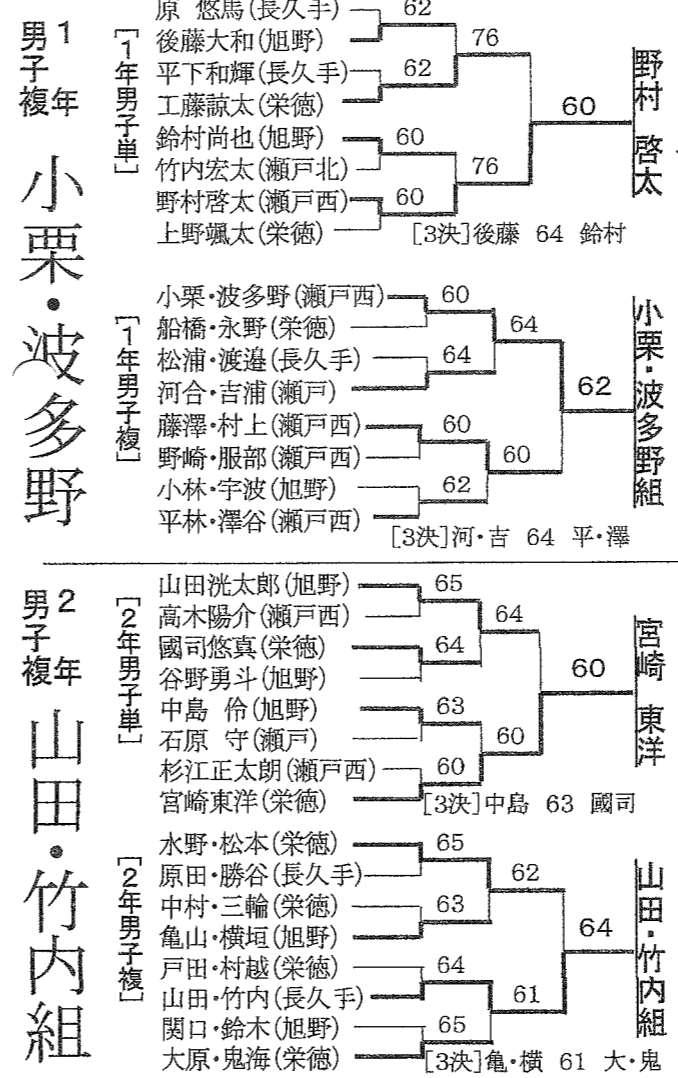
宮崎(栄徳)

白石(旭野)

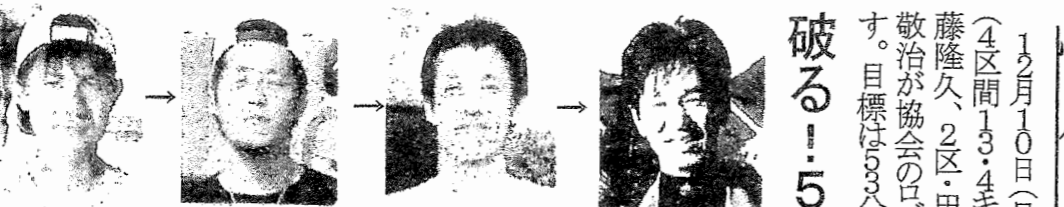
高木、杉江 4強ならず 杉江は王者・宮崎に挑んだが無念。ともに4強ならず。注目の女子1年・後藤(瀬戸)は複に出場。3連続完封でV。瀬戸勢では西高強入り。準々決勝で高木は惜敗。

高校学年別大会 成績

[1年男子単] 優勝=野村 啓太(瀬戸西) 準優勝=工藤 諒太(栄徳) 第3位=後藤 大和(旭野) 鈴村 尚也(旭野)	[1年男子複] 優勝=小栗・波多野(瀬戸西) 準優勝=藤澤・村上(瀬戸西) 第3位=河合・吉浦(瀬戸) 平林・澤谷(瀬戸西)	[2年男子単] 優勝=宮崎 東洋(栄徳) 準優勝=山田 洸太郎(旭野) 第3位=中島 伶(旭野) 國司 悠真(栄徳)	[2年男子複] 優勝=山田・竹内(長久手) 準優勝=水野・松本(栄徳) 第3位=亀山・横垣(旭野) 大原 鬼海(栄徳)
---	--	--	---



瀬戸駅伝 狙うぞ53分台の協会新



1区・加藤隆久 34歳・2度目 3・4キロ 目標13分59秒 昨年2区で快記録。1区で大脇に代わってぜひ13分台を!	2区・田中整 33歳・初出場 1・8キロ 目標7分01秒 昨年の加藤の7分02秒を1秒短縮!スピード区間、若さ期待。	3区・中垣孝行 42歳・3度目 4・6キロ 目標17分59秒 自己最高17分56秒。昨年18分00秒。1秒縮め、再度17分台!	4区・大脇敬治 44歳・5度目 3・6キロ 目標13分59秒 過去1区14分04秒の力走。悲願の13分台を4区で出す!
--	--	---	---

快足4人つなげ死力のタスキ

11月10日(日)の瀬戸近郊駅伝。協会は今年も男子2部(4区間13・4キロ)に6度目出場します。精鋭4人。1区・加藤隆久、2区・田中整ひとし、3区・中垣孝行、4区・大脇敬治が協会のロゴを胸に付けて力走、汗のタスキをつなぎます。目標は53分台の協会新記録。応援してください。

「デニス」は足下「スー」の駅伝6度目の挑戦。錦織圭直筆サイン入りの黄色タスキに健闘を誓い、昨年は1区序盤でトンプに立って協会を大いにPR。2区で順位を上げ、3区で粘り4区も力走。55分09秒(67チーム中19着)の協会新記録でゴールした。今年は一気に53分台を狙っています。4人が「1秒を削り出す」目標タイム通りに走れば52分58秒。1人15秒ずつ遅れても53分58秒!1ヶタ順位が見えてくる。1区、4区で通過するのひかり保育園(前)には協会の走路員たち、力強い応援でランナーを励ましてください。

錦織 全豪どころ?

ブリスベンは申し込み右手首故障中の錦織圭(世界22位・日清食品)は11月24日、記者発表会で復帰時期について「来季開幕戦のブリスベン国際(12月31日)」

豪をめぐっているが、2月か3月になるかもしれない」と4大会・全豪(1月15日開幕)欠場の公算を示唆した。年末29日に28歳、直後のブリスベン(前回はV)にエンポリス。来季目標は「力強く復帰。」「上を見て、過去を見過ぎないように頑張る」という。

最優秀賞に杉田

協会は今年日本テニス協会が発表した最優秀選手を表彰。最優秀選手賞に杉田(写真)。特別賞に9月に引退した伊達公子を選んだ。

男子錦織22位、杉田40位は変わらず。ダニエル98位。1位・ナダル、2位・フェデラー、3位にデミトロフ。女子大坂68位、日比野97位、奈良102位。1位・ハレプ、2位・ムグルサ、3位・ウオズニヤック(ランキングは毎週月曜発表)



デイミトロフV ツァーニアイル ゴファン下し初

◆V談話=「この場でトロフィーを抱かなくて、うれしくて言葉が出ない。すばらしい2週間、急成長のゴファンは強かった。大会関係者、観衆、一チ、家族に感謝する。大切な女友達、ニコルにも感謝したい!」

出場のスソックを下し、ゴファンは本命・フェデラーを倒した。決勝はこの大会6番手と一番手の26歳対決。リーグではデイミトロフが6-1、0-6、1-2でゴファンに完勝していた。

初出場ツアー18勝目。決勝リーグで負けたゴファンが積極的な攻撃。序盤のプレッシャーから第4ゲームをキープして3-1リード。しかし第8ゲームをデイミトロフにブレイクバックされ、6-15からの第12ゲームも破られ、7-15でデイミトロフ。第2セットは6-4でゴファンが奮い返し、ファイナル。最終セット、両者キープでデイミトロフの3-12。第6ゲームでゴファンのサーブをブレイク。5-12から3本のマンチポイント。5-12から第9ゲーム。5度目のミスが第9ゲーム。5度目のミスが第9ゲーム。最後はゴファンのボールがネットに掛かった。瞬間、デイミトロフはコートに長々と突っ伏してしばし感涙。初出場での優勝は19年ぶり6人目。5万円を獲得。大舞台で華々しくツアー8勝目を挙げた。

2組のリーグ戦結果

フェデラー	準決勝進出	ナダル(代役)	リーグ敗退
ズベレフ	リーグ敗退	カネノブスタ	リーグ敗退
チリッチ	リーグ敗退	テイム	準決勝進出
ソック	準決勝進出	デイトロフ	準決勝進出
		ゴファン	準決勝進出

若手旗手は鄭現

21歳以下ツアーは新設21歳以下ツアー。鄭現は全インテリミラの優勝は全仏で錦織を苦しめた鄭現(中国)。韓国21歳。ルプレフシエを下して初代王者に。次回は出られない。

デ杯10度目V

ベルギーに3-2。デ杯決勝はフランスがベルギーを3勝2敗で下して16年ぶり10度目の優勝。フランスは2月の日本との1回戦はガスケ、シモン、ムニ、ベルの布陣で4-1と快勝。その後、英、セルビアを連破。ベルギーは独、伊、豪を撃破。決勝は2勝2敗から最終単で18位・ブイユが3-1で快勝。16年ぶりVを決めた。

フエド杯米17年ぶり

女子国別戦のフエド杯決勝は米がペラルシに3勝2敗で勝って17年ぶりの優勝。

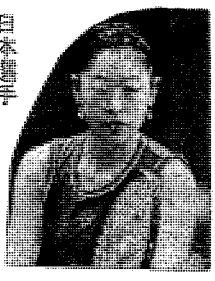
奈良、決勝進出逃す

安藤証券OPP東京で奈良くのみは田中優季、井上雅、ブレシア(伊)を下したが準決勝で3-6、3-6で逆転負け。奈良、3-6で逆転負け。

4大会19年から

シード数「16」に減。4大会来季からの新ルールとして1回戦途中棄権またはプロとして基準以下のプレーをした選手に場合により罰金を科される。今全英男子1回戦で7人がリタイアしたことの対して1回戦前に棄権した選手は代替選手と賞金を分ける。19年からシード数を32から16に減らすことも決めた。

最後の「ダンロップ」豊田



日本選手
女子で活躍した波形純理
(なみがたじゆんり)

▽女子複決勝
ニチャペン
3-6
6-3
10-4

内山組 決勝逃す

実はコートカーベット交換の出資者がなく、今年が最後のダンロップスリクソンワールドチャレンジ(11月19日まで豊田。男子復期待の内山靖崇(北日本物産)マクララン、ペン組は準決勝で豪組にマツチタイブレ4-110で決勝進出を逃した。松井(A.P.F)組も準決勝敗退。豪組は、ゴンザレス(フィリピン)ルンカット(インドネシア)組にマツチタイブレ10-8でV。
男子単はエブデン(豪)がエヌリー(仏)を下して優勝。早大勢の千頭昇平、島袋将はともに予選敗退。

吉富組、準決勝で涙

女子単は波形純理(伊予銀行)が準決勝で、ジダンセク(スロベニア)に敗れ決勝進出ならず。プザルネスクル(マニア)が6-10、6-11で快勝V。
女子複は波形、リキナ(ロシア)組が準決勝で藤原(北日本物産・清水(M.A.S.A)組を6-4、6-13で下し、決勝はニチャペン組(タイ)にマツチタイブレを10-4で取って逆転優勝。吉富愛子(福山女学園)・早大・橋本総業・11年高校総体単女王)・西本恵組は準決勝でタイのペアに4-6、1-6で敗れた。

30歳 シアラポワ 歓喜の復帰初V

シアラポワ(ロシア)が復帰後初優勝。写真真。天津オープン(10月15日まで)単決勝で元世界1位のシアラポワが19歳のサバレンカ(ベラル

全日本 20歳・高橋が初V

全日本選手権(10月29日まで・東京有明)男子単は、高橋悠介(20歳・三菱電機)が江原弘泰(日清紡)に0-6、6-4、7-15で逆転勝ちし、初優勝。
準決勝で上杉海斗(慶大)を6-4、6-13で下した第2シード・高橋と、第3シード・関口周一(REC)を7-6、6



江原を下して初優勝した高橋
◆高橋の話=「第1セットは緊張した。相手のペースにのまれてしまった。楽しんでプレーしないと後悔すると気持ちを切り替えた。賞金でいい時計を買おうかな」
◀高橋 悠介▶ 昨年プロ転向。10月17日で20歳。170センチ。小柄ながら強打が武器。ジャパンOPで世界262位から初めてツアー予選を突破、1回戦で52位・ハリソン(米)に善戦。若手有望株。

女子ツアー最終戦 ウオズニアツキが

女子の今シーズン成績上位者が競うWTAファイナルはシカゴポールで開催。10月29日の決勝・元女王対戦でウオズニアツキ(デンマーク)がビーナス(米)を下して初優勝。
ヒンギス3度目の引退表明
37歳・今度こそ？
元女王のヒンギス(スイス・37歳)がWTAファイナルを最後に現役引退を表明。過去2度引退・復帰を繰り返したが、今回は引退の時が来た。このす

ーシに7-5、7-6で競り勝ってツアー36勝目。元女王は感極まり両手を胸の前で合わせて何か独り言。観客に投げキスして、「特別な勝利」と声を詰まらせた。

1-2で退けた第5シード・江原との決勝。高橋が第2セット以降、力強いショットでポイントを重ね、ネットプレーを織り交ぜた得意の形で押し切って初制覇。14年に続く2度目Vを狙った江原は「ベストのプレーをしたが、相手の球が速くて打ち抜かれた」と脱帽。第1シードの伊藤竜馬(北日本物



秋田に辛勝、初Vの今西美晴

産)は準々決勝で江原に4-6、4-6で敗れた。
最終セット1-4から逆転
女子は昨年、大前に屈して準優勝の第1シード・今西美晴(島津製作所)が第6シードの秋田史帆(北島水産)を6-4、4-6、6-4で下し、3度目の決勝進出で初優勝。最終セットは1-4の劣勢から懸命に粘って5ゲームを連取し逆転。秋田は目前で初の「日本一」を逃した。

男復は江原・片山組 女復は筑波大・ヘアV

男子複は第4シードの江原片山翔(伊予銀行)組が守谷総一郎(あきやま病院)・竹内研人(北日本物産)組に6-1、6-4で快勝し初優勝。
女子複は森崎可南子・米原実令組(筑波大)が梶谷桜舞・西本恵組(島津製作所)を6-0、7-15で破り初制覇。大学生。今度の優勝は22年ぶり。混合複は上杉海斗・西本恵組が望月勇希(中大)・森崎可南子組に7-5、6-4で競り勝って初優勝。

伊達再起の地・岐阜で引退式典

岐阜は96年に引退した伊達が復帰宣言して再出発したメモリアルの地。復帰初戦08年4月、ツアー下部大会のカンガルーカップで準優勝。復優勝。この好成绩で得た自信が以後を支えたといひ、自らこでの引退イベントを希望した。伊達は詰めかけたファンに「ここで良いスタートが切れたので(復帰後の)9年半があったと振り返り、今後については(ス)ス愛する気持ちと情熱を持

つてテニスとできるだけ関わりたい。皆さんは身近なスポーツとしてテニスを愛し続けてほしいと笑顔で呼びかけた。
「女性100人」に選出
英BBC放送は「世界に影響した今年の女性100人」を発表。日本のテニス元プロ・伊達公子が名を連ねた。世界4位から引退。37歳で復帰。約10年間プレーし、今年9月に引退。世のアラフォーに「目標達成に年齢は妨げではない」と示したことを評価された。
伊達は自分で限界をつくりたくなかった。ここまでやって来られた自分自身にも誇りを持りたい」とBBCに答えた。

ノボトナ49歳 癌で：
女子世界ランク元2位で98年全英女王のヤナ・ノボトナ(子エリ)が癌で11月19日死去。49歳。
4大会複12度、混複4度V。ツアー単24・複76勝。99年引退。05年、国際テニス殿堂入り。

あしゅんイベント

○：今年の全日程終了。あとは2月の理事会。高木会長14年間お疲れさまでした。苦勞さまです稲垣新会長。
○：最終戦・壮年・レイニス、八百山46歳・三浦51歳組初V。何連覇もするかな？ レイニスもいい決勝でした。
○：10月末で4回の協会練習会終わる。最後は雨。高木正則氏、柴田高良氏、ほぼ皆勤のトッブ2。来4月再開です。練習は裏切らない。また頑張りましょう。
○：錦織のいないツアー・ファイナルは寂しかったね。新聞も冷たい扱い。決勝まで一切載らず。写真がなくて困った。圭の手首、全豪には間に合わないのでは。
○：1リーグは川崎逆転初V。گرانパス11復帰は朗報。10日の瀬戸駅伝、出しますよ協会新記録。ちよと早いですが、皆さまよいお年を。(会報係・近藤)

STKニュース
瀬戸市テニス協会業務部長の協会報「原則隔月、昭和50年(1975年)創刊。98年から定期刊行。第10号まで梶田俊幸・元理事が制作。第11号から業務理事・近藤峰夫が独自編集。会員約240人に送付。
「訂正」前号3面・服装既定で、男子「襟付き半袖シャツ」を「シャツ」に訂正します。適切なシャツ、アンダーシャツはOK。不適切な服装はウオームアップ時も着用できません。
次号は18年3月末